



1. 気象概況（中野市長丘地区気象ロボット観測データによる）

旬別 月間	上旬		中旬		下旬		月間		比較
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	
1 月平均気温（℃）	0.2	−1.6	−2.1	−2.8	−2.7	−1.9	−1.5	−2.1	平年比+0.6℃
1 月降水量（mm）	17.0	20.6	58.5	30.1	49.5	26.3	125.0	77.0	平年比 162%
1 月日照量（h）	44.7	45.4	24.6	40.1	46.9	48.8	116.2	134.3	平年比 87%

● 低温積算状況

到達：1000h 12/27、1100h 12/31 頃、1200h 1/5、1400h 1/13

昨年より 14 日程度早く、平年より 2 日遅れで達成。

● 1 月期上旬気象特記

気温（高い）：平年比+1.8℃。最高気温+2.8℃。最低+1.7℃。低温 1/7 −11.5℃

降水量（少ない）：平年比 82%

日照量（やや少ない）：平年比 98%。

● 1 月中旬気象特記

気温（平年並み）：平年比+0.7℃。低温：1/14 −8.9℃、1/20 −12.2℃等。

降水量（極多）：平年比 194%。1/14～17 豪雪。最大積雪量：120 cm。降雪量（田上）：1/14 32 cm、1/15 54 cm、1/16 40 cm、1/17 40 cm）

最大降雪量：1/15 54 cm（北部・8.5 mm）、1/17 50 cm（南部・22.5 mm）。1/17 雪質は湿った重い雪であった。

日照量（少ない）：平年比 61%。

● 1 月下旬気象特記

気温（低い）：平年比−0.8℃。氷点下 10℃以下 5 日。最低：1/26 −16.4℃今季最低）。

降水量（極多）：平年比 188%。1/21～22 降雪：2 日間合計 20.0 mm等。

日照量（やや少ない）：平年比 96%。

● 1 月気象特記

気温（やや高い）：平年比+0.6℃。氷点下 10℃以下 7 日。10℃越え 1 日。

降水量（極多）：平年比 162%。中下旬 191%。1/14～17 集中豪雪。最大：1/17 22.5 mm。

積雪量：南部 110 cm（1/17）、北部 120 cm（1/15）

日照量（少ない）：平年比 87%。中下旬曇天日多。

● 品目別生産の経過・病虫害発生状況・今後の対策

- 加温サクランボ・もも
- ◆ 覆被状況・面積：1/24 時点、サクランボ 7 棟・もも 1 棟被覆。
1/13～の降雪により各棟本格的な加温が始まる。ハウスで、雪害が発生。
- ◆ 1/13 低温積算 1,400 時間到達。出荷開始は 28 年産より早まる見込み。

- 柿
- ◆ H28 年度収穫開始 南部：10/20～ 中部：10/22～ 高社：10/24～（剥皮は収穫後 2～3 日後）平年比+3 日
- ◆ 果皮色に比べ果肉の生育が先行していた。加えて条紋の発生もやや多い傾向で、軟化によるロスが多発した。
- ◆ 前期乾燥時期（10 月末～11 月上旬頃）は時折降雨はあったものの連続した晴天日が多く、カビは少発生。
- ◆ 後期乾燥時期（11 月中旬～下旬頃）は晴天が少なく、干しあがりはおよそ平年並みとなった。
- ◆ 市田柿出荷 12/1 開始。12/12 ピーク。出荷量は昨年よりも多いことが見込まれる。
- ◆ 12/22 最高気温 20.3℃、平均気温 10.3℃。22、23 日の検品ではモドリによる返品の高まった。
- ◆ 販売情勢から後半・大口出荷者を対象に出荷調整中。1 月末から 2 月初めにかけて販売を行う予定。
- ◆ 1/14-17 豪雪によりハウス（干場）一部の倒壊被害発生。

- りんご（H28 ふじ満開 4/23・前年－6 日・平年－12 日）
- ◆ H28 収穫開始 サンつがる：8/15、秋映 9/24、スイート 10/3、ゴールド 10/7、王林 10/18、ふじ 10/27
- ◆ 病虫害発生状況（H28）
黒星病（多～極多）、うどんこ病（極多）、炭そ病（小～中）、輪紋病（中）
ハダニ類（小～中）、シンクイムシ類（多）、カイガラムシ類（中）、ケムシ類（小）、アブラムシ類（小）
- ◆ 品種別特記
 - 早生種：高温による着色不良が顕著であった。つがるは面積減に加えツルサビの発生多く正品化率は悪かった。
 - 中生種：収穫期は平年より 7～10 日早かった。果肉軟化早く、日持ち性が悪い果実が過去になく多かった。糖度は全体に高めであった。秋映はツルサビ多発（開花期の低温遭遇による）、大玉化に伴うビターピットの発生が多く正品化率が低下した。スイートは中心果の欠落・ツルサビ発生・着色不良等により正品化率は悪かった。加えて、芯カビ果の発生が多かった。ゴールドは酸味の抜けが早く、日持ち性が悪い果実が非常に多かった。加えて、台風による裂傷・打撲が目立った。中生種の全体生産量は前年比 83% 見込み。
 - ふじ：果肉軟化・酸味低下も前年より 7～10 日早かった。10 月中旬から輪紋病が発生したが全体では小発生。収穫開始：10/27～。着色・蜜入り遅れにより果肉成熟に反して収穫は遅れた。
品質：9 月中旬以降の日照不足により着色が全域で遅れた。また、気温帯も高く経過したため、蜜入りも遅れた。加えて、蜜入りも悪い状況であった。（指数で 2～3 程度）果肉軟化が近年になく進んでいたため、貯蔵性の悪い果実が多発した。変形果・果点サビ多発・ビターピット多発等により過去になく正品化率が悪かった。
玉流れ：32>28>36>26>40>24>46>50。9 月下旬以降の多湿で玉肥大が進みふじ全体に大玉傾向。
平均糖度 15.2%。（12/20 現在）規格外率：12.4%（変形果・果点サビ・ビターピット発生果等）
- ◆ 生産量（前年対比）
つがる 86%、秋映 80%（平均糖度 13.4%）、スイート 83%（平均糖度 13.8%）、ゴールド 82%（平均糖度 14.3%）
ふじ 82% 見込み（平均糖度 15.2%）
- ◆ H29 ふじ健全花芽率は 50% 前後と昨年より悪い状況。秋季の高温により褐変花芽率も高い。
- ◆ 1/14～17 豪雪により老木樹の枝折れ被害発生。被害部からの枯れこみが心配される。

- キウイフルーツ
- ◆ ヘイワード収穫開始：南部 10/22～ 北部 10/28～
- ◆ 開花前進（5/25 頃）、その後の高温等により生育が非常に早まった。大玉果や弱樹勢の樹で樹上果肉軟化しており、落果がみられた。落果しなかった樹上軟化した果も、味・風味が悪く、ロスとなった。
- ◆ 大玉傾向で 24 玉（146～166g）中心。平年に比べ扁平果がやや多い。
- ◆ 生産量は平年に比べ多い。価格も良い傾向のため増収が見込まれる。
- ◆ 1/14-17 豪雪によりキウイ棚への被害が発生。